



小林市立小林小学校

校長通信

令和6年6月20日

第52号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp

水泳が始まる時期となり

ましたが、いよいよ心配されるのは「熱中症」です。

この時期は、気温や湿度の上昇に「身体が慣れていない。」ことが大きな要因です。

「慣れていない。」というのは、気分や個人の問題ではありませぬ。「汗をかけない。」

「深部体温が下がりがらな。」など、一年間の身体のサイクルの中で、だれもがまだ

体温調節機能が追いついていない時期であることを確認しておきましょう。単純に

考えると、同じ条件下でも秋より初夏の方がリスクが高いと言えるのでしょうか。

「お子さんは、自分の平熱を知っていますか？」

「お子さんは自分の体の調子を自分の言葉で伝えることができますか？」

日頃から、自分の体調に関心を持たせることも、大事な予防策のひとつです。

## 「学校を愛する」かたち

「今年度から小林小学校の

担当となりましたので」と、ご挨拶に見えられたのは、都城人権擁護委員の有馬(旧姓・今

針山)泰子さん。お話をしているうちに、有馬さんが小林小学校の卒業生であることが分か

りました。当時の校長先生のお名前を伺うと「伊藤先生です。」と即座にお答えになりました。

(伊藤博校長 在籍：昭和40～45)：当時の校長先生というのはインパクトがあったんだ

なあ。今の子どもたちは、大人になって私のことなど覚えて

いるはずもない：と思いがらお話を伺いました。

その頃ひと学級40人以上で、6年生は6学級。全校生徒が千五百人以上いた最も児童

数の多い時代です。久しぶりの母校。建物は新しいけれども、校長室から見えるいくつかの木々を眺めながら、当時を懐かしんでおられました。

6年生の国語の学習では、自分たちでテーマを決めて取

材をし、まとめる学習をしていました。私のところにも、いくつかのグループが取材に

来ました。「先生が私たちに望むことは何ですか。」

私のところにインタビューに来るグループのテーマは、「小林小学校をもっとよくす

るにはどうしたらよいか。」そんなテーマ設定に何とも

言えない喜びを感じながら、私の思いを伝えました。

今から五十年以上も前の先輩たちも、学校をよくすることを考えていました。そして、

それを形にし、その成果は今も学校を彩っています。

今の私たちも、自分の学校のためにできることを考え、その思いを「かたち」にする行動力を受け継いでいきたいものです。みんなの「学校愛」をこれからも大きく育てていき

ましよう。

## 「ドッチビー大会」ありがとうございました

再年度から種目や方法を見直したPTA行

事ですが、今年も保護者の皆さんや子どもたち、先生たちとの楽しい時間を過ごすことができました。

準備や運営に当たった保体部の方や参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

## 【お知らせ】

先日、子どもたちの計画委員会が行われ、

子どもたちが考えた

今年の小林小学校のスローガンが決まりました。



整理整頓を心がけ、学校をもっときれいにしていくことや

いじわるや悪口のないきれいな心で

学校を楽しくしたいという願いが込められているそうです。

とてもいいスローガンを決めてくれました。

スローガンが実現するように、いっしょに頑張りましょう。